グリオの語り／歌で伝える物語

1. グリオについて

教科書の写真でコラをひきながら歌っているのは，グリオとよばれる演奏家です。

グリオは，西アフリカでまだ人々が文字をもたなかった時代から，歌によって人々に英雄の話など歴史を伝えたり，さまざまなぎ式をまとめたり，生活の中の教訓を歌ったりして，大切な役割を果たしてきました。

グリオにはだれでもなれるわけではなく，グリオの家に生まれた人々によって受けつがれる決まりがありました。また，グリオの人々は大変多くの知識をもっていたため，王様などから重用され，いっぱんの人々からもすうはいされていました。

グリオが使う楽器は，コラだけでなく，木きんの仲間であるバラフォンなどがありますが，いずれも，コラを使う家のグリオはコラだけを，バラフォンを使う家ではバラフォンだけを，というように，家によって楽器が決まっています。

2. 歌で伝える物語

物語を人々に歌で伝えるかたちは，西アフリカのグリオだけでなく，世界のいろいろな時代や地域に見られます。

★吟遊詩人…ヨーロッパでも古くから，歌で物語を伝える人々がいました。『イーリアス』や『オデッセイア』などを歌って伝えたアオイドス（ギリシア語で「歌い手」の意味），恋愛物語や十字軍を主題とする歌を歌いながらフランスなどの宮ていを回ったトルバドゥール，ドイツなどで騎士物語を歌ったミンネゼンガーなどが有名です。貴族たちの間で重用された歌い手や，いっぱんの人々の暮らしの中で物語を伝えた歌い手がいました。

★琵琶法師…日本では，平安時代に仏教に関する話を琵琶にのせて説く琵琶法師が現れました。鎌倉時代になると，平氏のぼつ落をえがいた『平家物語』が琵琶法師によって語られ，「平曲」として完成しました。室町時代には，琵琶法師の中に牛若丸（源義経）と浄瑠璃姫との恋物語をえがいた『十二段草子』をうたう者が現れ，これが江戸時代に栄えた劇場音楽「浄瑠璃」につながりました。